

平成 25 年度 大栄経理学院
第 135 回日商簿記検定試験 模範解答

3 級

商業簿記

第 1 問 (20 点)

	仕		訳	
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	通 信 費	18,000	現 金 過 不 足	14,200
	雑 損	2,200	受 取 手 数 料	6,000
2	手 形 売 却 損	2,150	受 取 手 形	430,000
	当 座 預 金	427,850		
3	備品減価償却累計額	144,000	備 品	200,000
	未 収 金	50,000		
	固 定 資 産 売 却 損	6,000		
4	租 税 公 課	36,000	当 座 預 金	60,000
	引 出 金	24,000		
5	仕 入	680,000	当 座 預 金	520,000
			当 座 借 越	160,000

仕訳 1 組につき 4 点 合計 20 点

(配点は、当学院の予想です)

第 2 問 (10 点)

帳簿 日付	現金出納帳	当座預金 出納帳	商品有高帳	売掛金元帳 (得意先元帳)	買掛金元帳 (仕入先元帳)	仕入帳	売上帳	受取手形 記入帳	支払手形 記入帳
	4			○		○	○		
9	○		○	○			○	○	
18					○				○
23		○		○					
31				○	○				

各日付につき 2 点 合計 10 点

(配点は、当学院の予想です)

第 3 問 (30 点)

合 計 残 高 試 算 表

平成 25 年 1 月 31 日

借 方		勘 定 科 目	貸 方	
残 高	合 計		合 計	残 高
128,300	129,800	現 金	1,500	
423,500	588,500	当 座 預 金	165,000	
160,000	210,000	受 取 手 形	50,000	
150,000	305,000	売 掛 金	155,000	
36,600	66,600	売買目的有価証券	30,000	
93,000	93,000	繰 越 商 品		
	4,000	前 払 保 険 料	4,000	
800,000	800,000	備 品		
	50,000	支 払 手 形	122,000	72,000
	40,000	買 掛 金	187,000	147,000
	25,000	前 受 金	45,000	20,000
		未 払 金	20,600	20,600
		所 得 税 預 り 金	5,000	5,000
		借 入 金	300,000	300,000
		貸 倒 引 当 金	11,100	11,100
		備品減価償却累計額	320,000	320,000
		資 本 金	983,200	983,200
	5,000	売 上	170,000	165,000
		有価証券売却益	3,000	3,000
201,500	201,500	仕 入		
50,000	50,000	給 料		
4,000	4,000	支 払 保 険 料		
2,046,900	2,572,400		2,572,400	2,046,900

1つにつき 2 点 合計 30 点
(配点は、当学院の予想です)

第 4 問 (8 点)

繰 越 商 品

平成 24 年	摘 要	借 方	平成 24 年	摘 要	貸 方
1/ 1	前期繰越	100,000	12/31	売上原価	100,000
12/31	売上原価	200,000	〃	次期繰越	200,000
		300,000			300,000
1/ 1	前期繰越	200,000			

売 上 原 価

12/31	繰越商品	100,000	12/31	繰越商品	200,000
〃	仕入	2,900,000	〃	損益	2,800,000
		3,000,000			3,000,000

各 2 点 合計 8 点

第 5 問 (32 点)

精 算 表

勘 定 科 目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	100,000		12,000				112,000	
当座預金	279,000						279,000	
受取手形	300,000						300,000	
売掛金	450,000			50,000			400,000	
売買目的有価証券	312,000			2,000			310,000	
繰越商品	360,050		310,500	360,050			310,500	
消耗品	54,000			39,000			15,000	
仮払金	40,000			40,000				
備品	300,000						300,000	
車両運搬具	500,000						500,000	
借入金		1,000,000						1,000,000
買掛金		250,200						250,200
前受金		120,000						120,000
貸倒引当金		12,000		2,000				14,000
備品減価償却累計額		81,000		27,000				108,000
車両運搬具減価償却累計額		225,000		90,000				315,000
資本金		1,000,000						1,000,000
売上		4,820,980				4,820,980		
受取手数料		220,000		20,000		240,000		
仕入	3,210,000		360,050	310,500	3,259,550			
給料	1,080,000				1,080,000			
支払家賃	650,000			55,000	595,000			
旅費交通費	62,130		28,000		90,130			
支払利息	32,000		10,000		42,000			
	7,729,180	7,729,180						
貸倒損失			50,000		50,000			
貸倒引当金(繰入)			2,000		2,000			
有価証券評価(損)			2,000		2,000			
減価償却費			117,000		117,000			
消耗品費			39,000		39,000			
未収手数料			20,000				20,000	
(前払)家賃			55,000				55,000	
(未払)利息				10,000				10,000
当期純(損失)						★215,700	215,700	
			1,005,550	1,005,550	5,276,680	5,276,680	2,817,200	2,817,200

1 つにつき 3 点

当期純損失は 2 点 合計 32 点

(配点は、当学院の予想です)

【3 級解説】

第 1 問

1. 決算日において、現金過不足のうち原因判明分は適切な科目に振り替え、原因不明分は「雑損」勘定または「雑益」勘定に振り替えます。
2. 手形割引時の割引料は「手形売却損」勘定で処理します。
3. 商品以外のものを売却して代金は後日受け取るときは「未収金」勘定で処理します。
4. 事業用の部分に対する固定資産税は、お店の費用となり「租税公課」勘定で処理します。店主用の部分は店主の生活費であり「引出金」勘定または「資本金」勘定で処理します。指定科目に注意しましょう。
5. 当座借越し契約を締結している場合で、当座預金残高を超える小切手の振出しを行ったときは、その超過部分を「当座借越」勘定で処理します。銀行に対する借入金です。

第 2 問

各取引を仕訳すると以下の通りです。

4 日	(仕 入)	400,000	(買 掛 金)	400,000
9 日	(受 取 手 形)	175,000	(売 上)	375,000
	(売 掛 金)	200,000		
	(発 送 費)	5,000	(現 金)	5,000
18 日	(買 掛 金)	300,000	(支 払 手 形)	300,000
23 日	(当 座 預 金)	100,000	(売 掛 金)	100,000
31 日	(買 掛 金)	100,000	(売 掛 金)	100,000

現金出納帳 … 現金の増減を記録する補助簿。

(現 金)	×××	()	×××
()	×××	(現 金)	×××

当座預金出納帳 … 当座預金の増減を記録する補助簿。

(当 座 預 金)	×××	()	×××
()	×××	(当 座 預 金)	×××

売 上 帳 … 商品の売上取引を記録する補助簿。売上の値引・返品取引も記入されます。

()	×××	(売 上)	×××
(売 上)	×××	()	×××

仕 入 帳 … 商品の仕入取引を記録する補助簿。仕入の値引・返品取引も記入されます。

(仕 入)	×××	()	×××
()	×××	(仕 入)	×××

受取手形記入帳 … 受取手形(手形債権)の増減を記録する補助簿。

(受 取 手 形)	×××	()	×××
()	×××	(受 取 手 形)	×××

支払手形記入帳 … 支払手形(手形債務)の増減を記録する補助簿。為替手形の振出は、支払手形の増加取引ではないので支払手形記入帳には記載されない点に注意しましょう。

() ××× (支 払 手 形) ×××
 (支 払 手 形) ××× () ×××

商品有高帳 … 商品種類毎にその有高を記録する補助簿。商品の有高が増減したときに記載されるので、商品の仕入・売上取引があった場合に記入されます。なお、仕入の値引・返品、売上の返品は記載されませんが、売上値引は記載しません。売上値引は利益部分の減少であり、売値が安くなるだけで有高(原価)は増減しないためです。

得意先元帳 … 得意先毎の売掛金の増減を記録する補助簿。

(売 掛 金) ××× () ×××
 () ××× (売 掛 金) ×××

仕入先元帳 … 仕入先毎の買掛金の増減を記録する補助簿。

() ××× (買 掛 金) ×××
 (買 掛 金) ××× () ×××

第3問

1 月中の取引の仕訳は以下のとおりです。

1 日	(支 払 保 険 料)	4,000	(前 払 保 険 料)	4,000
4 日	(前 受 金)	25,000	(売 上)	70,000
	(売 掛 金)	45,000		
7 日	(仕 入)	121,500	(当 座 預 金)	70,000
			(買 掛 金)	50,000
			(現 金)	1,500
8 日	(買 掛 金)	40,000	(支 払 手 形)	40,000
10 日	(受 取 手 形)	60,000	(売 上)	100,000
	(売 掛 金)	40,000		
15 日	(売 上)	5,000	(売 掛 金)	5,000
17 日	(現 金)	33,000	(売 買 目 的 有 価 証 券)	30,000
			(有 価 証 券 売 却 益)	3,000
21 日	(仕 入)	80,000	(受 取 手 形)	50,000
			(買 掛 金)	30,000
23 日	(現 金)	20,000	(前 受 金)	20,000
25 日	(給 料)	50,000	(所 得 税 預 り 金)	5,000
			(当 座 預 金)	45,000
28 日	(当 座 預 金)	150,000	(売 掛 金)	150,000
29 日	(支 払 手 形)	50,000	(当 座 預 金)	50,000
31 日	(売 買 目 的 有 価 証 券)	20,600	(未 払 金)	20,600

第 4 問

売上原価の算定を「売上原価」勘定で行う決算整理仕訳です。繰越商品勘定の前期繰越額より期首商品棚卸高は ¥100,000 と判明します。

(売 上 原 価)	100,000	(繰 越 商 品)	100,000
(売 上 原 価)	2,900,000	(仕 入)	2,900,000
(繰 越 商 品)	200,000	(売 上 原 価)	200,000

第 5 問

未処理事項

1. 仮払金について

(旅 費 交 通 費)	28,000	(仮 払 金)	40,000
(現 金)	12,000		

2. 貸倒れについて

(貸 倒 損 失)	50,000	(売 掛 金)	50,000
-------------	--------	-----------	--------

前期発生売掛金の貸倒れについては「貸倒引当金」を取り崩して充当できますが、当期発生の売掛金の貸倒れについては貸倒引当金を充当できません。この場合は貸倒損失(費用)として処理します。

資料Ⅱ

1. 貸倒引当金の設定について

(貸 倒 引 当 金 繰 入)	2,000 *	(貸 倒 引 当 金)	2,000
-------------------	---------	---------------	-------

受取手形と売掛金の期末残高の 2%(¥14,000)を貸倒引当金として設定するため、決算整理前の貸倒引当金残高 ¥12,000 に ¥2,000 を繰り入れます。

$$* (\text{¥}300,000 + \text{¥}450,000 - \text{¥}50,000) \times 2\% - \text{¥}12,000 = \text{¥}2,000$$

2. 売買目的有価証券の評価替について

(有 価 証 券 評 価 損)	2,000 *	(売 買 目 的 有 価 証 券)	2,000
-------------------	---------	---------------------	-------

$$* \text{時価総額} \text{¥}310,000 - \text{簿価総額} \text{¥}312,000 = \Delta \text{¥}2,000$$

3. 売上原価の算定について

(仕 入)	360,050 ^{*1}	(繰 越 商 品)	360,050
(繰 越 商 品)	310,500 ^{*2}	(仕 入)	310,500

仕入勘定残高(当期仕入高)に、期首商品棚卸高を加算し、期末商品棚卸高を減算することで売上原価を算定します。

*1 期首商品棚卸高：決算整理前試算表「繰越商品」勘定より

*2 期末商品棚卸高：問題文資料より

4. 消耗品について

(消 耗 品 費)	39,000	(消 耗 品)	39,000
-------------	--------	-----------	--------

決算整理前試算表に「消耗品」勘定(資産)が計上されているため、購入時に資産処理していることが分かります。よって、決算時に当期使用分を「消耗品費」勘定(費)に振り替えます。

5. 減価償却について

(減 価 償 却 費)	117,000	(備品減価償却累計額)	27,000 *1
		(車両運搬具減価償却累計額)	90,000 *2

$$*1 \quad (\text{¥}300,000 - \text{¥}30,000) \div 10 \text{ 年} = \text{¥}27,000$$

$$*2 \quad (\text{¥}500,000 - \text{¥}50,000) \div 5 \text{ 年} = \text{¥}90,000$$

6. 受取手数料について

(未 収 手 数 料)	20,000	(受 取 手 数 料)	20,000
---------------	--------	---------------	--------

7. 支払家賃について

(前 払 家 賃)	55,000	(支 払 家 賃)	55,000
-------------	--------	-------------	--------

支払家賃のうち、1 ヶ月分(次期 1 月分)は次期の期間に対するものなので、当期の支払家賃から控除し次期に繰り延べます。

$$* \quad \text{¥}165,000 \times \frac{1 \text{ ヶ月}}{3 \text{ ヶ月}} = \text{¥}55,000$$

8. 支払利息について

(支 払 利 息)	10,000	(未 払 利 息)	10,000
-------------	--------	-------------	--------

次期 3 月末に支払う予定の利息のうち、3 ヶ月分(当期 10 月から 12 月分)は当期の経過期間に対するものなので、当期の支払利息として見越計上します。

$$* \quad \text{¥}1,000,000 \times 4\% \times \frac{3 \text{ ヶ月}}{12 \text{ ヶ月}} = \text{¥}10,000$$